

2016年
6月20日
月曜日

國枝 卓真 准教授 (マクロー経済学)

自分を育てる三つの法

今から30年前、友人たちと週一回誰かの下宿に集まり、新聞記事や雑誌の記事、時には専門書のコピーなどを持ち寄って、政治や経済、はたまた人生や天下国家について等々、夜更けまで議論するという機会を設けていた。あるときメンバーの一人が、かつて恩師から聞いたという「自分を育てる方法」という話を持ってきた。議論の詳細は忘れてしまったが、そこで述べられていた方法というものは今でも覚えており、これまでそれほど意識はしなかったものの、時折思い出しては反芻することがあった。メンバーの一人が持ってきたこの題材には三つの方法が述べられており、すべてのものを捨て去った後で、それでもなお残る三つのポイントであるとのことであった。

一つ目は、美しいものを感じることに。世の中には美しいものが数多く

ある。自然の美しさは観る者を圧倒する。また、美しい音楽、美しい数式、美しい理論、美しい花、美しい絵画など、観る者を圧倒するものは他にもたくさんありそうだ。個人的な感覚だが、美しいものにはすごいエネルギーが秘められていて、それに触れると理屈抜きに自分自身が素直になれるような気がする。この素直になるという感覚が重要だと思う。美しいものを美しいと素直に感じる心を保つことができれば、身近にある優れた人や優れた技術を素直に賞賛し、さらには自分の中にある優れた才能に気づくこともできるのではないかと思う。

二つ目は、常識を吹き飛ばすようなことをする。これは、世間からお叱りを受けるような非常識なことをしるというのではなく、日常生活では考えもつかないような体験をせよと言うのだろう。常識を吹き飛ばす

ような体験によって、自分の限度や新しい価値観を見つけることができるとは思わないかと思う。人間の成長には、物事のギリギリのところを見たり感じたりすることが必要なのではないか。例えば、私が通っていた高校では年に一度50キロ走るマラソン大会があった。中学を卒業したばかりで50キロ走れと言われたときには、マラソン選手でもないのにできるわけではないと思ったが、それでもやってみると思いのほか走れたりして、二年生、三年生になると50キロが普通になってくる。大学生、社会人になるにつれて様々な制約により、日常を離れて常識を吹き飛ばすような体験をする機会がますます減ってくる。それでも、そのような体験は、我々の成長には必要なことだと思う。

三つ目は、本を読む。私自身は熱心な読書家ではないが、本を読むと

いうことは、本の中の人物を見るという意味で大変重要なことだ。本の中で出会う、自分とは違う考え方やアイデアなどは、現実として直接影響を受けるものではないが、一冊の本が人生を変えてしまったということもよく聞く。社会人になると、なかなか集中して読書をする時間が取れなくなるかもしれないが、一週間に一度くらいは心の時間というものを決めて、落ち着いて読書でもしてみようということは大切なことなかもしれない。

メンバーの一人が持ってきた「自分を育てる方法」を紹介したが、心の片隅にでもおいて、ふとした時に思い出して、自然体で試してみたら試してもらえればいい。